

【広瀬地区】

「人・農地プラン」第1回地域懇談会概要

- 開催日時等 令和3年12月11日 午後6時から 東部地区農業研修センター
- 参加者数 21人
- 概要

- 1 「人・農地プラン」及びアンケート結果の説明
- 2 ワーキング・グループ（4班）による討議

◆地域の課題

担 手

- 耕作者の高齢化、担い手・後継者不足、農業者がいない（確保）。
- 耕作者が一部の人に集中している。
- 兼業農家での限界、兼業が維持できるような交通インフラの整備
- 地区外の農業者が増えると管理できない。
- 委託できなかった時の農地の管理

農地・水

- 未整備地や小区画の効率の悪い水田だけでなく、区画の拡大が必要
- 水路が老朽化し、水漏れ箇所が増加、再整備が必要
- 農道が整備されておらず車両が入れない。
- 耕作条件の悪い農地の活用
- 農業を止めた後の農地管理

営 農

- 米価が安く、特に小規模農家は赤字であり、米以外の作物を栽培しないと生計が成り立たない。
- 農業に対して魅力がなく、生活が厳しく、年金が少ない。
- 作物の安定した販売先がなく、地区の特産物がない。
- 農機具の保守点検が負担
- 農機具が小さく効率が悪い。
- 農機具が高く更新が難しく耕作ができなくなる。古い農機具を使っている人もいてる。
- 農薬、肥料、燃料の価格が上昇し、水利費等も高いなど諸費用がかかりすぎる。
- 体力、気力が衰えてきている。また害虫防除や除草作業が辛くなっている。
- 吉野川分水の賦課金の支払者
- 営農教育が不十分
- 今後の営農について
- 農地は資産保有の性格が強いので、農業の発展は必要なし。

鳥 獣 害

- ジャンボタニシの駆除
- ウンカやタヌキ、イタチ及びアライグマなど外来種による農作物の被害

そ の 他

- 耕作するために税の減税
- 市街化編入

◆現状と将来の農業者等

現 状

- 自作
- 受委託
- 友人
- 地元
- A社

将 来

- 自作、子供、家族
- 地元の農業者
- 集落営農若しくは集落営農的な団体（できれば給料制）
- 法人化、会社組織に任ず。（給料制）
- 高収益な作物を栽培する人を探し貸し出す。
- 農学系の大学、高校で農業をしていく人
- しっかり管理してくれる誠実な人
- 人材を募集する。
- 役場
- A氏
- B氏
- C氏
- D氏
- E農事組合
- F社